暮らしのたより

8月－1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

8月の健康だより

☎ 保健婦人センター　64－8993

☆乳児相談
該当児　生後3ヵ月と9ヵ月に達した赤ちゃん
☆離乳食講習会
該当児　前期…生後2～5ヵ月の赤ちゃんを持つ母親や祖母
後期…生後8ヵ月以降の赤ちゃんを持つ母親や祖母
☆1歳6ヵ月児健康診査
該当児　平成2年1月生まれ
☆2歳児むし歯予防教室
該当児　2歳～2歳6ヵ月の幼児
☆3歳児健康診査(会場は富士保健所)
該当児　昭和63年7月生まれ
★日時、会場は健康カレンダーをごらんください。

8月の歩く会

☎ 体育振興課　内線 2727

とき　8月18日(日)　雨天は25日(日)
ところ　佐野川上流（山梨県南部町）
集合　富士駅改札口前　9:00
コース　富士駅発9:27 ― 十島駅10:21～佐野川上流　行程約13㌔
持ち物　弁当、水筒、雨具など
問い合わせ
事務局（桑原方）　☎52－2764

ダイヤル市政案内
☎52－1111

発明くふう展作品募集

☎ 工業課　内線 2581

展示日　9月21日(土)・22日(日)　9:00～18:00
展示場所　富士文化センター
作品　科学技術的に優秀で産業の振興や日常生活の改善に有益なもの。
出品区分　一般・学生・企業の部
出品料　無料
作品搬入　9月19日(木)　13:00～17:00
作品搬出　9月24日(火)　9:00～16:00
申し込み　9月2日～17日までに一般・企業の部は富士商工会議所か鷹岡商工会へ、小・中学生は、学校ごとに学校教育課へ、高校生以上は工業課へ申し込んでください。

青年教養講座
ユースセミナー

☎ 青少年課　21－6129

とき　9月4日(水)～11月20日(水)　毎月第1・3水曜日　19:00～21:00　計6回
ところ　ラ・ホール富士
対象　市内在住、在勤の15歳～30歳の青年150人（大学生も可）
受講料　2,000円
内容　・愛に支えられ、生きる第二の人生(鈴木ひとみ氏)・生き生きコミュニケーション(押阪忍氏)・世界の中の日本、その応戦と挑戦（高野孟氏）など
申し込み　8月5日～26日までに受講料を添えて青少年課（広見小学校西隣）へ申し込んでください。

犬、猫の引き取り日

☎ 環境衛生課　内線 2052

飼えなくなった犬、猫の引き取りは各会場15分です。当日は愛犬手帳をお持ちください。なお、飼えなくなって出した犬、猫はお返しできませんのでご注意ください。また、野良猫の捕獲、引き取りはいたしません。

◈8月2日(金)、16日(金)
吉永公民館 9:00、市役所西口 9:30、大渕公民館10:10、鷹岡公民館11:40
◈8月9日(金)、23日(金)
田子浦公民館9:00、富士公民館9:30

8月の献血

☎ 社会課　内線 2312

日	場所	時間
14日(水)	県総合庁舎	9:30～11:30
	中央病院	13:00～15:30
15日(木)	市役所西口	9:30～15:30
26日(月)	保健婦人センター	9:30～15:00
31日(土)	JR富士駅前	10:00～16:00

日野皓正 ジャズコンサート

とき　7月31日(水)18:00～
ところ　富士文化センター
問い合わせ
富士文化センター　☎61－6262

健康コーナー

膵臓(すいぞう)がん

胃の後ろにあり、消化酵素液やインスリンというホルモンを出す膵臓にできるがんです。その発生部位により、頭部がん、体尾部がん、全体がんに分けられます。頭部がんは体尾部がんの約3倍多く、全体がんは少ないが男性にやや多く好発年令は50～70歳代です。

症状は上腹部痛、背部痛、黄疸、糖尿病の出現や悪化などです。血液検査では血清アミラーゼ値の上昇、胆道系酵素の上昇のほか、がん自体より血中に産出される**腫瘍マーカー**の測定が参考となります。ただ2㌢㍍以下のがんでは腫瘍マーカーは高値とならないのが普通です。画像診断として、上部消化管造影、CT、超音波エコー検査、胆膵管造影などが行われますが、人間ドックなどでも手軽に行われる**超音波検査**は、発見のきっかけとして重要です。膵臓の腫大、異常エコー、膵管拡張などをチェックします。

治療は外科的手術が絶対必要ですがうまくいった人でも5年生存率は10.4%と不良です。しかし、腫瘍径2㌢㍍以下でリンパ節転移のない早期がんでは60%の5年生存率が得られています。

このように膵臓がんは、早期発見が難しく、症状が出た時には、手遅れのことが多く、他のがんに比べ、治療成績不良なやっかいながんといえましょう。現在では超音波検査で、手術可能な時期に膵臓がんを発見できることも多くなってきています。年一回は検査を受けるようにしましょう。

（富士市医師会）

レーダー通信

食中毒の発生しやすい季節となりました。食物が腐ると味やにおいでわかりますが、**食中毒菌**が繁殖しているのは見かけではわかりません。**まな板**はよく殺菌することが大切です。